

方言とアクセント（５年）

●指導目標

地方によって違った言葉が使われていることを理解し，適切に使い分ける。（言語）

- 方言を使った川柳を書くことを通して，方言と共通語に関心をもつ。（言語）

●教材について

児童は，ふだんなにげなく方言と共通語で話している。休み時間には方言，授業時間や全校児童の前などの改まった場では共通語で話している。ただ，アクセントにも違いがあることは，あまり意識していない。

本教材では，方言と共通語を定義したうえで，ものごとの名前や様子を表す言葉だけでなく，動きを表す言葉にも方言による違いがあることを学習する。アクセントも方言による違いがあることや言葉の意味が違ってくことを知り，自分の使っている言語を見直す機会としたい。そして，日常生活の中で方言と共通語を場面に応じて使い分けができることが目標となる。

そこで，本実践では，以下のことに留意し，指導にあたることとする。

（１）視聴覚教材での導入

方言と共通語の違いを，児童に理解しやすくするために，視聴覚教材（ＣＤ）の視聴を行う。指導書音声編や津軽弁を題材にしたＣＤを聞かせ，自分たちが日常生活のなかで方言と共通語の両方を使っていることの楽しさに気づかせ，教材への学習意欲を高める。

（２）方言を使った川柳作り

「地方によってちがう言葉」「アクセントのちがい」の学習をもとに，方言を使った川柳を作る。津軽弁を使った川柳を読み，自分たちも作ることによって，自分たちが話している言葉への関心を高めたい。また，場や相手によって，共通語と方言を使い分けさせたい。さらに，方言のもっているよさにも気づき，自分たちの方言に愛着をもたせたいと考えた。

●学習指導計画（全２時間）

展開・時		過程	学習活動	留意点，評価規準及び方法
一 次	第１時	課題をつかむ・イメージをもつ	○ 指導書音声編や方言のＣＤを聞き，方言と共通語という話し言葉の学習を行うことを知る。 ○ 『方言とアクセント』を読み，方言と共通語，方言によるアクセントの違いを知る。	○ 方言と共通語，方言のアクセントの違いを，言葉と音によって理解させる。 言：方言と共通語，方言によるアクセントの違いを理解している。（発言・ノート）
	第２時 （本時）	実践・交流	○ 方言が使われている詩や川柳があることを知る。 ○ 自分が使っている方言を使った川柳を作る。	○ 川柳を作ることによって，方言と共通語の使い分けを理解させ，方言独特の表現のよさを感じさせる。 関：方言に興味をもち，川柳を作ろうとしている。（態度・発表・作品）

● 本時の展開（本時 2 / 2）

目 標

- ・方言が使われている詩や川柳を読むことをとおして，身のまわりの方言のよさや，方言と共通語の使い分けについて理解を深める。
- ・自分が話している方言を使い，川柳を作る。

● 展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価・支援
1 本時のめあてを確認する。		
自分たちの方言を使って，川柳を書こう。		
2 方言詩や方言川柳を読む。 川柳の説明 ・五・七・五の音数になっている。無理に，区切ったり十七音におさめたりしなくてもよい。 ・内容は自由である。 ・ユーモアのあるものにするときは，自分を笑いに使ったものにする。	○方言が使われている詩や川柳を紹介しながら説明する。 ○方言が使われることによって親しみやすい感じがすることを確認する。 ○方言は一つの言葉で，たくさんの気持ちを表していることを確認する。	言：方言が使われた作品を読み，方言の味わいについて感想を述べている。（発言） ○共通語だけで書いた場合との違いを考えるよう助言する。
3 虫食い川柳を書く。	○方言が使われている川柳を提示し，五・七・五の中七の句だけを変えて，川柳を作らせる。	言：川柳の内容に合った言葉を考えて，書いている。 （ノート・発言） ○共通語でもよいので，上五と下五の句に合った言葉を考えるよう助言する
4 自分で川柳を書く。 ・身のまわりであったおもしろかったことをメモさせる。 ・班で話し合い，自分の失敗談や家族のおもしろい話を思い出させる。 ○作った川柳を発表し合い，方言のよさを話し合う。	○方言の，親しみやすさや地方の生活に深く根ざした表現をとり入れるようにさせる。 ○おもしろいものにならなくてもよいことを確認する。 ○自分で作った川柳を方言のアクセントで読めるように練習させる。	関：方言に興味をもち，川柳を作ろうとしている。 （態度・作品） ○方言に変えられる言葉を助言する。 ○方言で書いた川柳を声に出して読み，方言の味わいを感じ取らせる。

児童の作った川柳

とばされだ ばっちゃんのだんずは 最強だ

(とばされた おばあちゃんのおしりは 最強だ)

コマーシャル とっちゃんもかっちゃんも 便所だど

(コマーシャル お父さんもお母さんも 便所に行くそうです)

うぢのかっちゃん 電話さでれば 声かわる

(おうちのお母さん 電話に出れば 声が変わる)

どんずあげで へする兄よ もうやめれって

(おしりをあげて おならをする兄よ もうやめなさいって)

わあのだんず 晩げさなれば 合唱団

(私のうち 晩になると 合唱団になる)

きがなくても 家ではかっちゃんに 甘えでる

(気が強く剛情な私でも 家ではお母さんに 甘えている)

るす電話 聞ぐきがって 消去押す

(留守番電話を 聞こうと思って 消去ボタンを押す)